

平成29年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：南城市

島名：沖縄

協定対象漁業集落名：知念漁業集落

協定参加世帯数：101世帯（119人）

（うち漁業世帯数：101世帯（119人））

2. 協定締結の経緯

知念漁業集落は、沖縄本島南部の東海岸に位置し、良好な漁場環境を有しており、特にモズク海面養殖が盛んで、沖縄県内で2番目に生産量が多い地域で、沿岸での漁船漁業も盛んに行われており、水産業は南城市の産業に大きく貢献しています。

しかし、近年では、水揚量の減少に加え、魚価もなかなか向上せず、漁船漁業の水揚金額が減少傾向にあり、モズク養殖業においては、生産量の安定や更なる品質向上を目指すため種苗の育成に取組む必要性がある。

このため、漁業の基盤となる漁場の生産力向上や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組みを支援することを目指して離島交付金による漁業再生活動に取組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

産卵場・育成場となる魚礁を設置することにより、水産資源の保全や育成を図ることとした。

新たに浮魚礁を設置することにより、浮魚礁での水揚量の増大を図ることとした。

サメ類を駆除することにより、漁場の保全を図るため漁獲物の横取りや漁具への被害の減少を図ることとした。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

知念漁協主催の“とれとれ朝市”で鮮魚の直接販売を行うことにより、消費者に水産物の消費拡大を図ることとした。

モズクの収穫機として、異物除去装置の導入等により高付加価値化を図ることとした。

4. 取組の成果

①産卵場・育成場の設置

イカ産卵床は昨年度42基、今年度は10基を設置しているが、産卵の有無の確認ができていない。設置後の効果をシロイカの水揚げの実績で検証してみると下記のとおりで、天候不良が原因か出漁回数が設置前に比べて少なく実績としては減少となっている。今後産卵床が現場に定着し産卵が行われれば効果は期待できるので産卵の確認も必要である。

（シロイカ水揚げ実績）

平成28年 出漁回数（延べ）152回 水揚げ数量 210.5kg

平成 29 年 出漁回数（延べ）131 回 水揚げ数量 167.3 kg

②浮魚礁の設置

昨年度設置した浮魚礁には魚群が集まっているようだが当該魚礁での操業分を個別で確認することは難しく、パヤオ漁全体で実績を捉えたと下記のとおりとなる。今年は天候不良で出漁回数も減少したため、効果がでなかった。

（パヤオ漁法でのマグロ・カジキの水揚げ実績）

年	魚種	出漁回数（延べ）	水揚げ数量(kg)
平成 28 年	マグロ類	502 回	83,013
	カジキ類	149 回	17,480
平成 29 年	マグロ類	377 回	61,416
	カジキ類	123 回	12,137

③サメ駆除

今年度は1匹しか駆除できなかった。近場で潜り漁をしている漁師からのサメの目撃情報はあるので、漁法や餌、時期の再検討を行い漁場の保全を図る。

④鮮魚直接販売

月1回行われる日曜朝市のなかで新鮮なマグロの解体ショーを行い集客し、近海で獲れる種類豊富な魚を一般の方々へ直接販売している。即消費拡大と目に見えた効果は無いものの、最近では電話問合せも増えているので継続することで効果は期待できる。

⑤高付加価値化

もずく船上に異物除去装置（洗浄機）を設置した結果、今までより異物除去の効果が見られた。次年度は改良を加え、様々なサイズの船に対応した装置を製作したい。